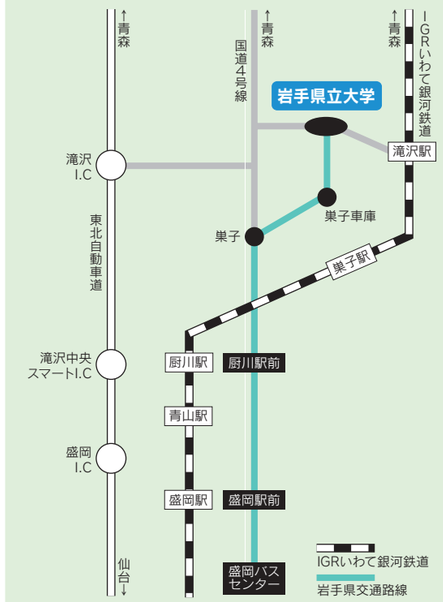
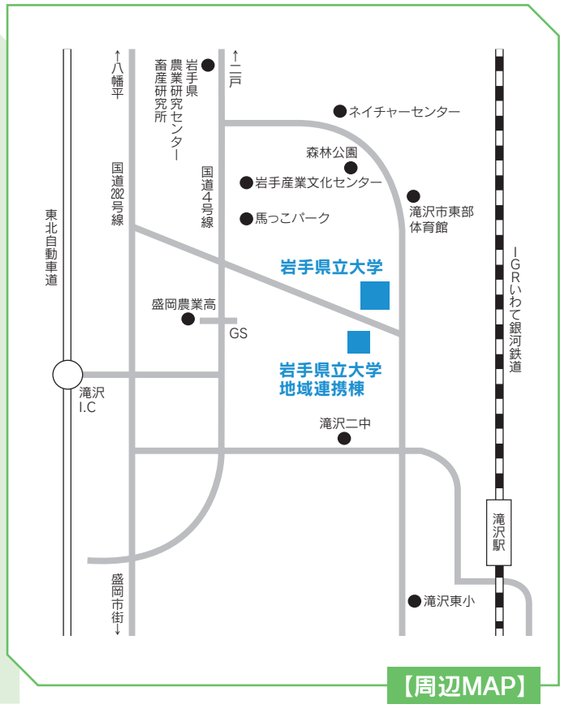


【広域MAP】





【周辺MAP】

ACCESS GUIDE（盛岡駅～）

■バス［東口バス停②］▶約30 ～ 45分
■自家用車▶約30 ～ 45分
■IGRいわて銀河鉄道▶約15分［滝沢駅下車・徒歩15分］

公立大学法人
岩手県立大学 地域政策研究センター

住　　所：岩手県滝沢市巣子152－89　岩手県立大学　地域連携棟
電話番号：019-694-3330　FAX：019-694-3331
e-mail：chiren@ml.iwate-pu.ac.jp
URL：http://www.iwate-pu.ac.jp/contribution/chiseiken.html

岩手県立大学　地域政策研究センター

印　　刷：株式会社 興版社

内容を転載される場合は、必ずご連絡ください。　※研究代表者の所属は研究課題採択時のものです。

2026.07

令和８年度

地域政策研究センター

Iwate Prefectural University Regional policy research center

本センターの歩み

2010年3月　「県民のシンクタンク／地域政策研究センター（仮称）」に係る準備委員会の発足
2011年3月　3.11東日本大震災の発生
2011年4月　地域政策研究センターの設立 初代センター長に総合政策学部 豊島正幸が就任
　　震災復興研究部門を設置
2011年9月　震災復興研究15課題を開始（2013年3月まで）
2012年7月　地域協働研究（教員提案型）を開始
2012年8月　地域協働研究（地域提案型）を開始
2013年4月　2代目センター長に宮古短期大学部 植田眞弘が就任
2013年5月　震災復興研究を地域協働研究（教員提案型）に統合
2013年6月　調査研究体制を震災復興研究部門・地域社会研究部門・地域マネジメント研究部門の3部門体制に改編
2013年9月　いわて県民交流センター（アイーナ）を会場に、第1回研究成果発表会を開催
2014年6月　東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究を開始
2015年3月　地方創生支援チーム設立
2017年4月　地域協働研究（教員提案型）を廃止し、ステージⅠ、ステージⅡを開始
2018年4月　3代目センター長に総合政策学部 渋谷晃太郎が就任
2020年4月　4代目センター長に総合政策学部 新田義修が就任
2021年4月　よろず法務相談室を開設
2022年4月　調査研究体制に防災研究部門を加え4部門体制に改編
2023年4月　調査研究体制を地域社会研究部門・地域マネジメント研究部門・Well-being研究部門の3部門体制に改編
2024年4月　5代目センター長に総合政策学部 宇佐美誠史が就任
2025年4月　地域協働研究をステージⅠ育成型・ステージⅠ本格型・ステージⅡの3区分に改訂

地域に 未来に 多様なアーチを
岩手県立大学
Iwate Prefectural University

地域政策研究センター長あいさつ



岩手県立大学は、建学の理念である自然、科学、人間が調和した新たな時代の創造を願い、地域に根ざした「実学・実践」による教育・研究や地域貢献活動を推進し、「岩手県民のためのシンクタンク」としての機能を通じて、地域に根ざした大学として着実に成果を上げてまいりました。現在、これまで重視してきた「地域からの視点」に“国連アカデミックインパクト”や“SDGs”（国連持続可能な開発目標）を援用した国際的な視点を関連付けた各種プロジェクトに加え、「防災復興支援センター」との連携を通じた人材育成や地域課題への対応など、新たなシンクタンク機能を強化しております。

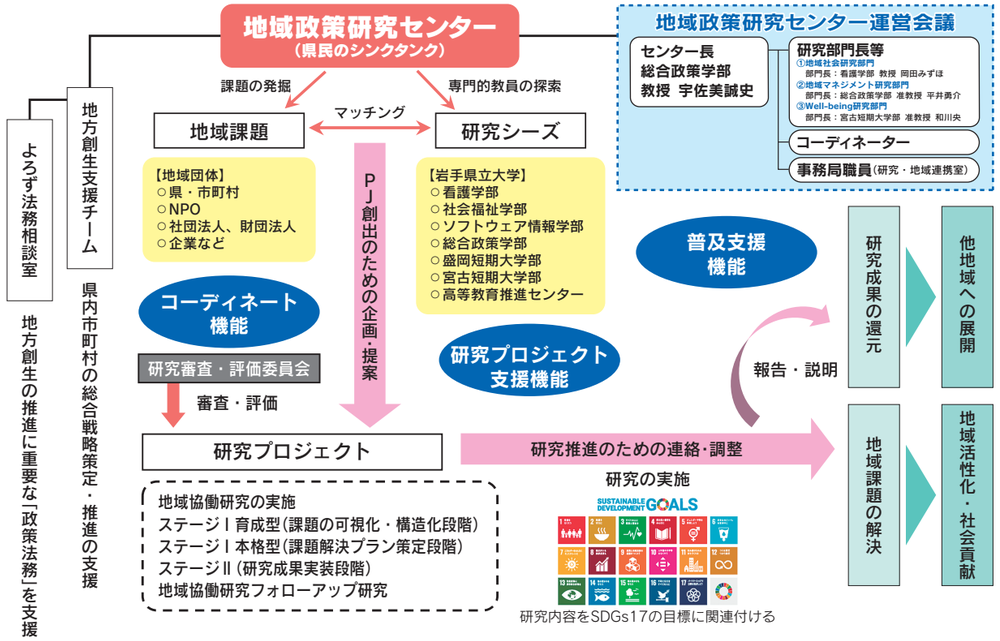
当センターは、「県民のシンクタンク」機能を充実・強化させるために“東日本大震災津波”発生直後の2011（平成23）年4月に設置されました。これまで、被災地にある公立大学の使命として、研究を通じて復興を促進させる「東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト」や、地域のニーズに対応した「地域協働研究」に積極的に取り組んでまいりました。

令和7年度からは、取り組むべき地域課題がまだ不明瞭な段階に、本学教員が地域と共に課題を可視化・構造化する「ステージⅠ（育成型）」を新たに設けました。従来のステージⅠは、本学教員と地域が協働して課題解決の方策を策定する「ステージⅠ（本格型）」とし、研究成果を地域で活用・実装する活動を支援する「ステージⅡ（研究成果実装）」につなげることで、岩手県内の行政、企業、NPOの皆様などの抱える課題解決に向けた研究活動をより一層推進してまいります。

このように当センターは、これまでの地域のニーズに対応する研究を進めることはもとより、「いわて県民計画」及び“SDGs”を達成するための未来志向の地域政策を進めるための研究を続けてまいります。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

岩手県立大学地域政策研究センター長・博士（工学）　**宇佐美　誠史**

地域政策研究センターの機能



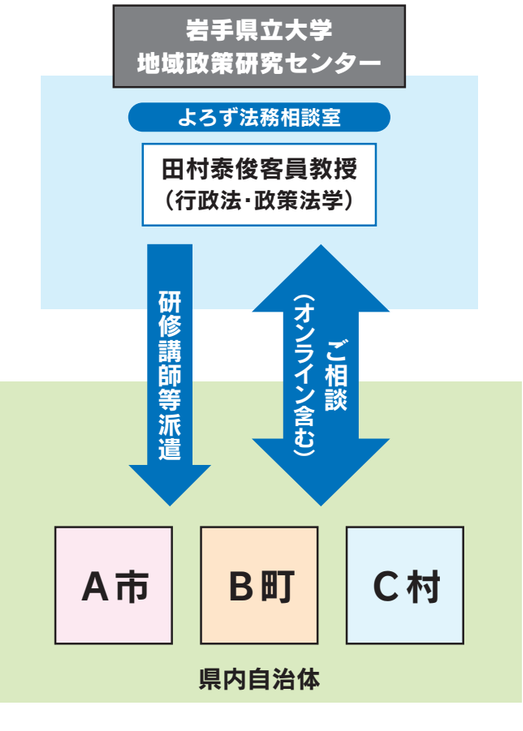
市町村（地方創生）政策法務支援事業

地域政策研究センターでは、市町村（地方創生）政策法務支援事業として、岩手県と連携しながら、県内市町村の政策法務の推進を支援するため、

◆条例の制定
◆条例の改正
◆行政処分
◆審査請求への対応
◆法務スキル向上研修

等の法務に関するお悩みをご相談いただく窓口として、「よろず法務相談室」を不定期に開催しています。

ご相談や研修講師の派遣など、「こんなこと相談しても大丈夫ですか？」といったことについても、お気軽にお問い合わせください。



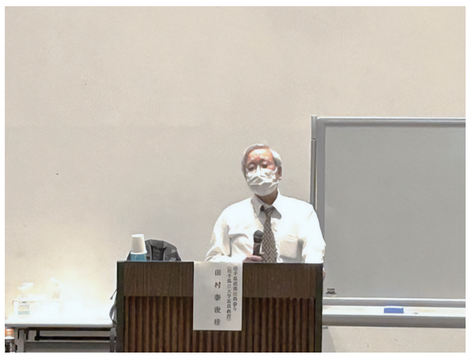
過去の相談事例

審査請求への対応、不適切な事務処理への対応、条例チェック、個人情報保護条例の見直し、所有駐車場内の放置車両に対する対応、認可地縁団体申請の手引の確認、等

令和７年度実績

・「よろず法務相談室」における法務相談 …… 7市町村70回
（相談内容：審査請求、差押え、行政手続法など）

・研修の実施 …… 13市町村27回
（新採用研修、行政手続法、組織マネジメントなど）





令和７年度実施の研修の様子

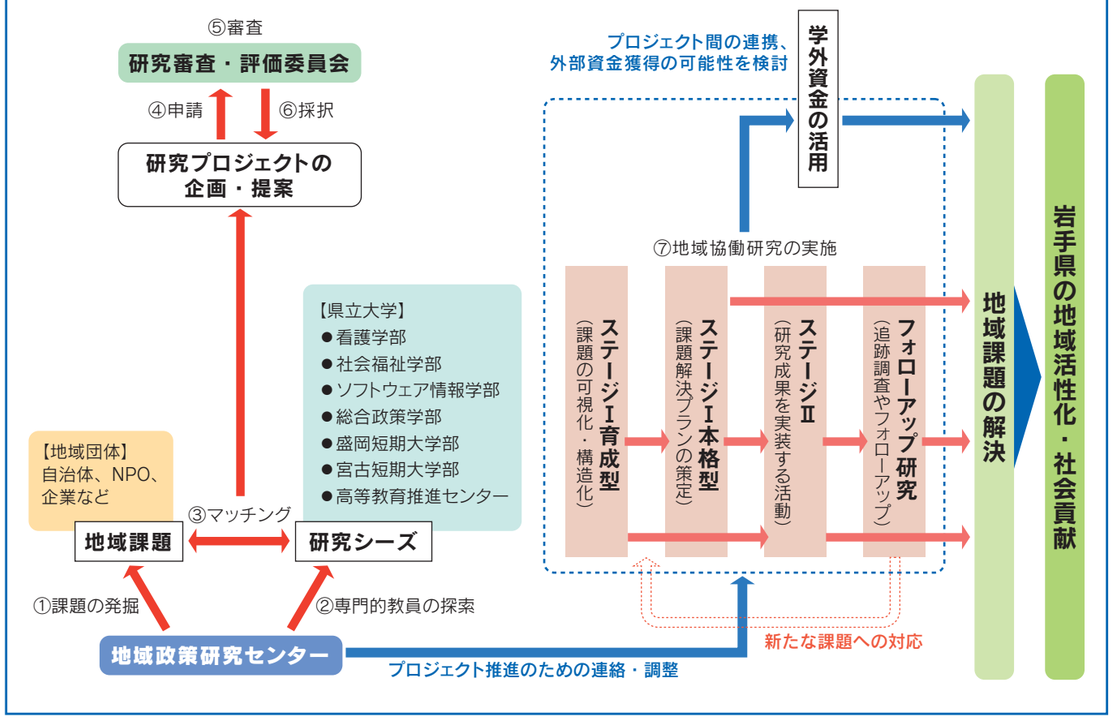
令和８年度地域協働研究について

地域政策研究センターでは、岩手県内の地域団体等を対象に地域が抱える課題を公募し、本学教員とのマッチングを経て調査研究を行い、課題解決に向けたプランを策定、さらに、それを地域団体等と協働して実施するものを支援して、地域課題の早期解決につなげることを目的として「地域協働研究」を実施しています。

本プログラムでは、地域課題を解決するために実施した研究成果を地域社会へ実用化・普及を進めようとする過程において、４つの段階を支援します。

	支援対象	研究費	研究期間
ステージⅠ育成型	【課題の可視化･構造化段階】 提案者が主体的に行う「可視化・構造化研究：地域の現状を客観的に分析し、課題等を可視化･構造化するための調査研究」を支援	１課題あたり上限10万円	単年度 (採択日～ 当該年度末)
ステージⅠ本格型	【課題解決プラン策定段階】 本学教員と提案者が協働して行う「課題解決型研究：地域課題の解決策を見出すための調査研究」を支援	１課題あたり上限30万円	単年度 (採択日～ 当該年度末)
ステージⅡ	【研究成果実装段階】 本学教員と提案者が協働して行う「研究成果実装活動：これまでの研究成果で得られた科学技術・社会技術を地域に実装するための活動」を支援	１年度目：上限100万円/課題 ２年度目：上限90万円/課題 ※地域協働研究費の10％相当額を共同研究費として提案者が負担	２ヵ年度 (採択日～ 翌年度末)
フォローアップ研究	【フォローアップ段階】 本学教員が行う研究フィールドにおける追跡調査やフォローアップを支援	１課題あたり上限15万円	単年度 (採択日～ 当該年度末)

地域協働研究を活用した地域課題解決の流れ



R7地域協働研究（ステージⅠ育成型）

R07-N-05「奥州市における地域福祉の現状と課題に関する研究」

課題提案者：社会福祉法人奥州市社会福祉協議会
研究代表者：社会福祉学部　佐藤哲郎

《要　旨》

本研究では標記テーマに基づき、地域セーフティネット会議参加者を対象にアンケート調査を実施し、171件の回答を得た。行政区を地域特性に基づき「住宅地」「商業地」「農業地域」「中山間地域」の4類型に分類し、地域特性による傾向を比較した（なお、「商業地」は回答数が１件のみであったため、分析からは除いた）。調査項目は地域福祉コーディネーターの認知、課題共有の方法、会議の実施状況、生活支援活動の実態などであり、クロス集計および地域特性別分析を行った。

結果として、第１に、クロス集計の結果、地域特性による傾向がみられた（表１・２参照）。第2に、奥州市の地域福祉活動は「見守り→課題共有→生活支援→専門支援」という過程を通じて住民主体の生活支援を生み出す地域福祉構造を持つことが確認された。それらの結果を踏まえつつ、最終的には分析結果を総合的にまとめ、地域特性に基づき３つのモデルに整理した（図１参照）。

表１　地域特性による傾向①

該当する質問項目	分析結果の概要
問１　地域セーフティネット会議の開催形態	「住宅地」が他の行政区分に比べて、「単独開催」と回答した割合が高い。
問２　要援護者の情報共有の方法	「住宅地」が他の行政区分に比べて、「住宅地図等を活用して共有している」と回答した割合が高い。
問６　ネット会議を通じた支援活動（見守り、生活支援等）を実施していてよかったと感じたこと	「農業地域」が他の行政区分に比べて、「活動を通じて一体感・連帯感が生まれた」と回答した割合が高い。
問７　子どもの減少や学校統廃合は地域活動にどのような影響があったか	「農業地域」が他の行政区分に比べて、「子ども会の解散、統合」と回答した割合が高い。 「中山間地域」が他の行政区分に比べて、「子ども会の解散、統合」と回答した割合が高い。 「農業地域」が他の行政区分に比べて、「子どもの減少により地域の活気が減った」と回答した割合が高い。

表２　地域特性による傾向②

該当する質問項目	分析結果の概要
問８　高齢者一人暮らし世帯への除雪支援の実施方法	「農業地域」が他の行政区分に比べて、「近所の人」と回答した割合が高い。 「農業地域」が他の行政区分に比べて、「対価は無償」と回答した割合が高い。 「住宅地」が他の行政区分に比べて、支援の主体数が多い（２つ以上）傾向にある。
問９　高齢者一人暮らし世帯へのゴミ捨て支援の実施方法	「住宅地」が他の行政区分に比べて、支援の主体数が多い（２つ以上）傾向にある。
問12　居場所づくりの活動の実施状況	「農業地域」が他の行政区分に比べて、「サロンを実施している」と回答した割合が高い。 「住宅地」が他の行政区分に比べて、サロンの活動メニューとして「スポーツの集い」を実施している割合が高い。 「住宅地」が他の行政区分に比べて、サロンの実施頻度が多い（３頻度以上）傾向にある。

図１　地域特性の３分類

地域類型	モデル	過程や行動の傾向
住宅地	関係形成型	見守りやマップ活用を通じて住民関係が形成される
農業地域	相互扶助型	助け合いを基盤に除雪支援を自治会のルールとして位置付ける
中山間地域	生活支援型	買い物送迎などの生活支援を自治会の仕組みとして整備する

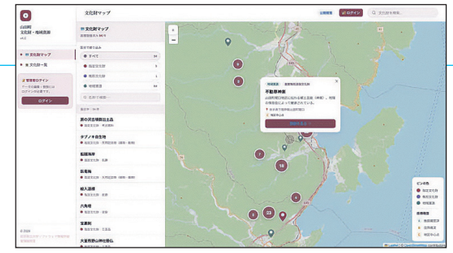
R7地域協働研究（ステージⅠ育成型）

R07-N-07「ICTを活用した小中学生に向けた文化財周知のための基礎検討」

課題提案者：山田町教育委員会
研究代表者：ソフトウェア情報学部　富澤浩樹

《要　旨》

本研究では、山田町の文化財を小中学生に広く知ってもらい、地域への愛着を育むことを目的として、ICTを活用した学習アプリの開発に取り組んでいる。山田町はリアス海岸と豊かな森林を持つ人口約1万3千人の町だが、貴重な文化財に対する住民の認知度は低く、特に子どもたちが地域の歴史や文化を学ぶ機会が乏しいという課題があった。この課題解決に向け、情報システムのデザイン手法を用いて問題状況を整理するとともに、町史をもとにリストアップした遺跡・民俗芸能・津波碑など約100件の地域資源について、名称・種別・年代・所在地といった情報を体系的に整理した。さらにそれらメタデータを管理する文化財・地域資源情報管理システムを試作。小中学生約500名へのアンケートでは、地域の歴史・文化への関心が高いことも確認できた。今後はこれらの成果を踏まえ、メタデータの拡充を続けながら学習アプリの設計・試作に着手する。県指定の「房の沢古墳群出土品」や「山田の神幸行事」など個性豊かな文化財を、子どもたちが楽しく学べるアプリの実現をめざしている。



試作した文化財・地域資源情報管理システム
https://cuckoo.si.soft.iwate-pu.ac.jp/~yamada_prj/



絵入道標（県指定史跡）

R7地域協働研究（ステージⅠ本格型）

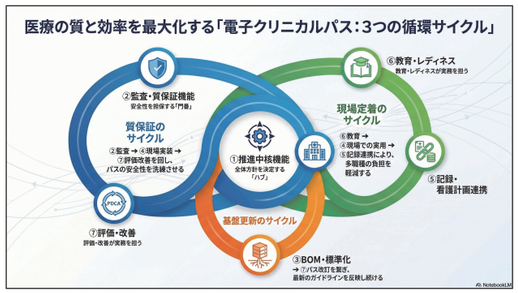
R07-I-02「岩手県立病院の電子クリニカルパス運用を推進する組織モデルの構築」

課題提案者：岩手県立宮古病院
研究代表者：看護学部　岡田みずほ

《要　旨》
本研究は、岩手県立宮古病院をフィールドに、医療の質保証と業務効率化を両立する「電子クリニカルパス運用推進に向けた組織体制統合モデル」の構築を目的とした。アクションリサーチを用い、院内関係者と協働して推進体制や段階的なパス監査体制を整理した。また、関連学会が定める標準アウトカム用語や厚労省推奨の電子カルテ標準用語への移行と同時に既存パスの見直しを推進した。さらに、アウトカム思考を体験的に学ぶ「カレーライスパス」などの段階的教育プログラムを実施した結果、参加者の基礎理解、多職種協働意識、自施設への応用意欲の向上が確認された。一方で、看護記録や看護計画との重複解消といった現場の課題、PDCAサイクルの構築など次段階の課題も明確になった。電子パスを質管理ツールとして持続させるには、標準化・審査・教育・評価改善を一体化した組織体制の運用が不可欠であり、今後は他病院へ応用可能な汎用モデルとしての確立を目指す。


多職種が参加した研修会のグループワーク風景


カレーライスパス作成風景



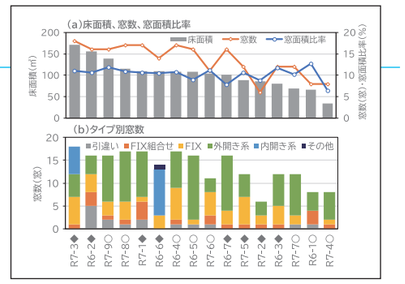
電子クリニカルパス運用推進に向けた組織体制統合モデル図案

R7地域協働研究（ステージⅠ本格型）

R07-I-13「高断熱で地域に根差した「岩手型住宅」の普及及び住教育の展開に関する研究」

課題提案者：岩手県
研究代表者：盛岡短期大学部　青笹　健

《要　旨》
本研究では、岩手らしい住まいの普及に向けて、「いわてZEH+住宅補助金」の活用事例を対象に、設計内容を指標化して特徴を比較し、窓や屋根の計画の実態を明らかにした。また、居住後１年間を経過した世帯のヒアリングから、高性能な住宅を志向するきっかけが様々であったこと、居住後の住み心地は満足度が高いことが明らかになった。住教育に関しては、過年度に試行した中学生向けの体験学習プログラムについて、時間数や内容を改善し、１回の授業で完結するプログラムとして、県内１校で家庭科の授業として試行した。授業後の感想では住環境への関心の高まりや体験メニューが好意的に受け取られている様子が見られた。今後、広い県土や幅広い世代に対応する情報発信に向けて、さらなる知見の蓄積や住環境教育の展開に向けた仕組みの構築が必要である。



令和6～7年度いわてZEH+住宅補助金の活用事例における窓計画の概要

事前準備	●事前打ち合わせ
温度測定 約１週間	●校舎（教室、体育館、昇降口など）
データ整理 約１週間	●温度測定データのグラフ化、教材準備
体験授業 ＜１コマ＞	●**冬の暮らしを住まいの視点で考えてみよう** ①導入：岩手の気候 ②岩手型住宅の解説 ③グループワーク１：校舎内の温度を考察してみよう ④グループワーク２：熱の移動を体験・可視化してみよう ⑤断熱、体感温度の解説 ⑥振り返り

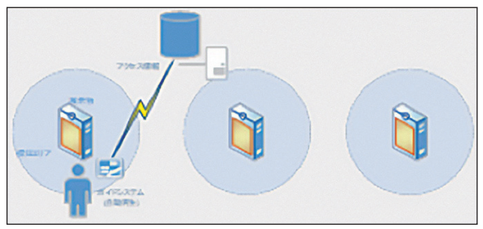
令和７年度体験学習プログラムの構成

R7地域協働研究（ステージⅠ本格型）

R07-I-21「インバウンドに対応した展示ガイドシステムの開発」

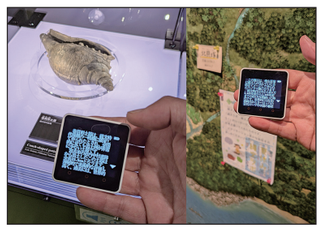
課題提案者：宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム
研究代表者：宮古短期大学部　昇髙茂樹

《要　旨》
本研究では、宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアムを対象に、汎用の小型デバイスとビーコンを用いて、インバウンドに対応した音声ガイドシステムの構築を行った。展示物付近に置かれたビーコンのエリアに入ると展示物に対応した内容の文字と音声が流れガイドを自動的に行う。ガイドシステムは、来日外国観光客をメインターゲットとし、持続可能なシステムとするため日本語を含めた4か国語（対応言語は解説文、解説音声を用意することで増やすことも可能）とし音声合成ソフトを用いることで、施設職員でガイド内容を容易に変更可能なガイドシステムとした。また、選択言語とガイドした展示物の情報をサーバに記録することで来館者の動向情報を蓄積し、分析することを可能とした。今回の運用ではデータ数が少なかったので、今後も継続してデータを蓄積し分析する必要がある。なお、構築したガイドシステムは現在稼働中である。



ガイドシステムのイメージ


言語選択の様子


実際のガイドの様子

R6地域協働研究（ステージⅡ）

R06-Ⅱ-03「久慈地下水族科学館（通称「もぐらんぴあ」）の魅力化促進及び誘客策の実装 ― 来館者の特性に応じた能動的なアプローチ ―」

課題提案者：有限会社あくあぷらんつ
研究代表者：総合政策学部　三好純矢

《要　旨》
久慈地下水族科学館もぐらんぴあは、県北地域の観光拠点として重要な役割を担う水族館施設である。しかしながら近年、集客力の低下により来館者数が伸び悩む状況が見受けられた。一方、三陸沿岸道路の整備や広域道の駅いわて北三陸のオープン、コロナ禍からの回復など、誘客機会の拡大につながる外部環境の変化も見られた。
そこで、R4・R5年度地域協働研究（ステージⅠ）では、アンケート調査やインタビュー調査を通じて、来館者特性や施設の魅力を整理し、「近隣地域からの来館者」と「遠方からの来館者」におけるニーズの違いを把握した。本研究（ステージⅡ）ではステージⅠの結果を踏まえ、地下空間という独自性を活かした展示空間の改善や情報発信の改善を行い、その取り組みの効果について、来館者アンケートとポストプライシングから分析している。今後、運営組織自らが来館者調査を継続するとともに、地域環境の変化に対応できる体制を構築し、持続的な誘客の実現を目指す。


地下トンネルを体感してもらうライティングの設置


広域道の駅いわて北三陸でのトンネル水槽をイメージした装飾の設置



来館者満足に応じた入館料の試験導入

採択課題一覧

令和8年度　地域協働研究

◆ステージⅠ育成型　【令和８年４月～令和９年３月】

研究課題名		研究部門	課題提案者	研究代表者	
				所属	氏名
R08N01	技能実習生を対象とした地域日本語支援体制構築のための課題の可視化	地域社会	二戸市国際交流協会	社会福祉学部	細越　久美子
R08N02	洋野町大野地区における持続可能な夏祭りの運営に関する課題の可視化	地域社会	洋野町	高等教育推進センター	劉　文静
R08N03	地域社会経済の動向に対応したキャリア教育の評価方法	Well-being	非営利活動法人未来図書館	総合政策学部	小井田　伸雄
R08N04	地域防災力の向上について	地域社会	八幡平市企画総務部防災安全課	総合政策学部	杉安　和也
R08N05	岩手に公立夜間中学を設立する必要性の検証――盛岡市近郊を中心に	地域社会	一般社団法人虹パーク	高等教育推進センター	山沢　智樹

◆ステージⅠ本格型　【令和８年４月～令和９年３月】

研究課題名		研究部門	課題提案者	研究代表者	
				所属	氏名
R08Ⅰ01	新里地域バス再編に合わせ実施するモビリティ・マネジメントによる行動変容に関する研究	地域社会	宮古市	総合政策学部	宇佐美　誠史
R08Ⅰ02	雫石町における透析患者のQOL向上及び糖尿病性腎症の重症化予防に向けた地域の基盤づくりの検討	Well-being	雫石町	看護学部	後藤　未央子
R08Ⅰ03	牛乳・乳製品等の飲用促進による岩手県内酪農家の持続的な支援　―若年層の牛乳・乳製品等の飲用促進の仕組みづくり―	地域マネジメント	小岩井乳業㈱盛岡支店	総合政策学部	三好　純矢
R08Ⅰ04	高断熱で地域に根差した「岩手型住宅」の効果効用及び住教育の展開に関する研究	地域社会	岩手県	盛岡短期大学部	青笹　健
R08Ⅰ05	岩手県一戸町鳥海地区における旧小学校校舎を活用した地域コミュニティ再編に関する調査研究	地域マネジメント	一戸町	総合政策学部	平井　勇介
R08Ⅰ06	滝沢市スマート農業技術の普及要因の解明とシステム再構築に向けた提言	地域マネジメント	滝沢市	総合政策学部	新田　義修
R08Ⅰ07	岩手県クマ目撃情報共有システムをとりまく現状分析を踏まえたリスクマップとしての高度化	地域社会	岩手県	ソフトウェア情報学部	堀川　三好
R08Ⅰ08	外国人市民の行政情報アクセシビリティに関する調査研究 ― 多文化共生社会の実現に向けて	地域マネジメント	盛岡市	盛岡短期大学部	吉原　秋
R08Ⅰ09	地域特性に基づく地域セーフティネット会議の課題解決モデルの策定 ―未実施行政区および第2層展開に着目して―	地域社会	社会福祉法人奥州市社会福協議会	社会福祉学部	佐藤　哲郎
R08Ⅰ10	ドライブレコーダービッグデータを活用した道路インフラ保全システムの開発	地域マネジメント	矢巾町	ソフトウェア情報学部	プリマ・オキ・ディッキ・アルディアンシャー
R08Ⅰ11	紫波町における行政区長制度の現状と課題：制度見直しに向けた基礎的研究	地域マネジメント	紫波町	総合政策学部	佐藤　周平
R08Ⅰ12	事業者へのマーケティング・経営戦略支援及び地域経済の活性化におけるAI人流データ等の活用可能性	地域マネジメント	盛岡市	総合政策学部	近藤　信一
R08Ⅰ13	幼児の探究活動はどのような保育観や子ども観を形成するか―園の保育者と保育者養成課程の学生による実践づくりを例に	地域社会	社会福祉法人プレイズザロード	社会福祉学部	若林　陽子
R08Ⅰ14	道の駅とうわ周辺エリアの活性化方策の具体化の検討	地域社会	花巻市	総合政策学部	役重　眞喜子
R08Ⅰ15	自転車プローブデータを活用した岩手県広域サイクリングルートの走行実態把握に関する研究	地域社会	岩手県	総合政策学部	宇佐美　誠史
R08Ⅰ16	地域商業の持続性に資する顧客接点の活用と購買体験支援の構造化に関する研究	地域マネジメント	株式会社川徳	総合政策学部	三好　純矢
R08Ⅰ17	SNS相談の地域版ゲート（こころの相談窓口誘導ボット）のデータ解析に基づく自殺予防の効果と課題	Well-being	盛岡市	ソフトウェア情報学部	富澤　浩樹
R08Ⅰ18	震災伝承施設・伝承団体への来訪者に係る動態把握	復興研究	岩手県	総合政策学部	山本　健
R08Ⅰ19	中心市街地（内丸地区）における「交流・共創プラットフォーム」の構築に向けた実践研究	地域マネジメント	盛岡市	総合政策学部	倉原　宗孝
R08Ⅰ20	木賊川遊水地一帯における野生哺乳類相の把握－過年度の調査結果の分析－	地域社会	たきざわ環境パートナー会議	総合政策学部	鈴木　正貴
R08Ⅰ21	小中学生に向けた文化財等周知のための学習アプリの試作	地域社会	山田町教育委員会	ソフトウェア情報学部	富澤　浩樹
R08Ⅰ22	移住者や関係人口と地域住民の良好な関係の構築による人口減対策の推進	地域マネジメント	岩手県	総合政策学部	堀篭　義裕
R08Ⅰ23	若年層の社会動態の要因に関する実態調査及び分析：質的調査を主な手がかりに	地域マネジメント	盛岡市	総合政策学部	堀篭　義裕
R08Ⅰ24	象と花プロジェクトが就労継続支援にもたらす効果に関する研究	地域社会	株式会社盛岡書房	社会福祉学部	松永　繁
R08Ⅰ25	インバウンドに対応した展示ガイドシステムの開発	地域社会	宮古市北上山地民俗資料館	宮古短期大学部	昇髙　茂樹
R08Ⅰ26	古文書解読による文化財保全と継承―大船渡市三陸町綾里千田家の古文書を通して―	防災	岩手県立博物館	宮古短期大学部	雲然　祥子
R08Ⅰ27	ある自治体における空き家対策の在り方から生む「空き家物語」の展開	地域社会	奥州市	総合政策学部	倉原　宗孝
R08Ⅰ28	岩手県満州開拓事業・資料に関わる慰霊・保存・啓発活動の継承にむけて	地域社会	岩手県満州開拓殉難の塔を守る会	盛岡短期大学部	三須田　善暢
R08Ⅰ29	決済機能付き地域アプリ「MORIO Pay」の機能強化による持続的利用促進の検証	地域マネジメント	盛岡Value City株式会社	総合政策学部	近藤　信一

◆ステージⅡ　【令和８年４月～令和10年３月】

研究課題名		研究部門	課題提案者	研究代表者	
				所属	氏名
R08Ⅱ01	岩手県立病院の電子クリニカルパス運用を推進する組織モデルの検証	地域社会	岩手県立宮古病院	看護学部	岡田　みずほ
R08Ⅱ02	人口減少下における持続可能な地域運営を支える地縁組織再構築の実証研究	地域マネジメント	彦部の地域づくりを進める準備委員会	総合政策学部	役重　眞喜子

令和7年度　地域協働研究

◆ステージⅠ育成型　【令和７年４月～令和８年３月】

研究課題名		研究部門	課題提案者	研究代表者	
				所属	氏名
R07N01	岩手県内の精神障害者ピアサポートに関する実態調査	地域社会	特定非営利活動法人ココカラいわて	社会福祉学部	泉　啓
R07N02	岩手の子どもたちが思う岩手の今と未来	Well-being	岩手県	高等教育推進センター	渡部　芳栄
R07N03	小規模地域コミュニティ存続における小学校の存在意義に関する事例研究	地域社会	新しい小学校をつくる会	高等教育推進センター	山沢　智樹
R07N04	「まちの将来像」実現の把握のための数値指標の設定について	地域マネジメント	一関市	総合政策学部	堀篭　義裕
R07N05	奥州市における地域福祉の現状と課題に関する研究	地域マネジメント	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会	社会福祉学部	佐藤　哲郎
R07N06	雫石町・健康 MaaS ～患者健康管理・通院支援システム～の構築に関する研究課題の可視化	地域マネジメント	雫石町	総合政策学部	宇佐美　誠史
R07N07	ICT を活用した小中学生に向けた文化財周知のための基礎検討	地域社会	山田町教育委員会	ソフトウェア情報学部	富澤　浩樹
R07N08	ドローンを活用した省力的な放牧看視に関する研究	地域社会	岩手県沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター	ソフトウェア情報学部	馬淵　浩司
R07N09	リニューアル3年目を迎えるZOOMOにおける顧客満足度を高めるための周遊コンテンツと魅力向上のアプローチの開発に係る課題の整理と調査	地域社会	株式会社もりおかパークマネジメント	ソフトウェア情報学部	阿部　昭博
R07N10	花巻市笹間地区の課題と今後の取り組みについて	地域マネジメント	花巻市笹間地区コミュニティ会議	総合政策学部	山本　健
R07N11	盛岡市における老人クラブ活動の活性化	地域マネジメント	盛岡市	社会福祉学部	本間　萌

◆ステージⅠ本格型　【令和７年４月～令和８年３月】

研究課題名		研究部門	課題提案者	研究代表者	
				所属	氏名
R07Ⅰ01	ふるさと納税制度における寄附者との関係性構築に向けた寄附動機の把握と要因分析	地域社会	盛岡市	総合政策学部	三好　純矢
R07Ⅰ02	岩手県立病院の電子クリニカルパス運用を推進する組織モデルの構築	地域社会	岩手県立宮古病院	看護学部	岡田　みずほ
R07Ⅰ03	宮古市新里地区における持続可能な地域内交通の構築に向けた調査研究	地域社会	宮古市	総合政策学部	宇佐美　誠史
R07Ⅰ04	西和賀産わらび粉の品質と菓子加工特徴の評価	地域社会	やまに農産株式会社	盛岡短期大学部	長坂　慶子
R07Ⅰ05	岩手町におけるクアオルト ® 健康ウォーキングの健康増進事業化の可能性の検討－クアオルト ® 健康ウォーキングのメンタルヘルスへの影響の検討－	地域社会	岩手町	看護学部	藤澤　由香
R07Ⅰ06	中心市街地（内丸地区）を対象にした実践活動による「交流・共創拠点」の分析	地域マネジメント	盛岡市	総合政策学部	倉原　宗孝
R07Ⅰ07	若者との協働による地域企業の企業価値向上に関する実証分析とモデル構築	地域マネジメント	特定非営利活動法人 wiz	総合政策学部	近藤　信一
R07Ⅰ08	県南地域における関係人口の関わりの度合いに応じた人口減少対策の推進について	地域マネジメント	岩手県	総合政策学部	堀篭　義裕
R07Ⅰ09	産直施設における繁忙期等を中心とした POS、ロケーションデータの活用による販売および利用者状況の可視化と予測に関する検討	地域社会	岩手県沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター	宮古短期大学部	大志田　憲
R07Ⅰ10	スマート農業（デジタル DX）の導入促進に向けたタブレット端末の効果的な活用方法に関する研究	地域社会	滝沢市	総合政策学部	新田　義修
R07Ⅰ11	盛岡市のひきこもりに係る現状把握と支援施策の検討	Well-being	盛岡市	社会福祉学部	平坂　義則
R07Ⅰ12	大学教育を通した三陸ジオパーク理念の浸透度向上のための調査研究	地域マネジメント	三陸ジオパーク推進協議会	宮古短期大学部	田中　宣廣
R07Ⅰ13	高断熱で地域に根差した「岩手型住宅」の普及及び住教育の展開に関する研究	地域社会	岩手県	盛岡短期大学部	青笹　健
R07Ⅰ14	盛岡市ヤングケアラーに関する実態調査	Well-being	盛岡市子ども未来部こども家庭センター	社会福祉学部	平坂　義則
R07Ⅰ15	生成 AI を活用した岩手県立水産科学館の魅力向上と展示システムの高度化	地域社会	岩手県立水産科学館	ソフトウェア情報学部	蔡　大維
R07Ⅰ16	岩手県広域サイクリングルートにおけるターゲットに関する調査	地域社会	岩手県	総合政策学部	宇佐美　誠史
R07Ⅰ17	水沢駅周辺における奥州の顔としての空間と活動の創出に向けた実践研究－世代や各地を結び開かれるウォーカブル空間づくりに向けて－	地域社会	奥州市	総合政策学部	倉原　宗孝
R07Ⅰ18	郷土財活用湧水エリアにおける湿地植生の評価と湿地管理方法の確立	地域社会	大槌町	総合政策学部	辻　盛生
R07Ⅰ19	釜石市片岸公園の生物多様性を目指した植生管理方法の確立	地域マネジメント	株式会社かまいしDMC	総合政策学部	島田　直明
R07Ⅰ20	SNS 相談の地域版ゲート（こころの相談窓口誘導ボット）の地域展開手法に関する研究	地域社会	盛岡市	ソフトウェア情報学部	富澤　浩樹
R07Ⅰ21	インバウンドに対応した展示ガイドシステムの開発	地域社会	宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム	宮古短期大学部	昇髙　茂樹
R07Ⅰ22	住民の主体性を担保する地域組織の再編―鳥海小学校廃校後の校舎利活用を契機とした地域づくりのために	地域社会	一戸町	総合政策学部	平井　勇介
R07Ⅰ23	決済機能付き地域アプリの通知機能を用いたユーザアクションの実証実験	地域マネジメント	盛岡 Value City 株式会社	総合政策学部	近藤　信一
R07Ⅰ24	持続可能なコミュニティ形成過程にかかる評価指標の構築	地域マネジメント	（仮称）彦部地区地域運営組織設置準備会議	総合政策学部	役重　眞喜子
R07Ⅰ25	木賊川遊水地内に創出した暫定的な「希少野生動植物保全区」に関する適切な維持管理方法とそれに要する各種労力の解明	地域社会	たきざわ環境パートナー会議	総合政策学部	辻　盛生
R07Ⅰ26	介護予防の意識向上を目指した個別プログラムの構築	地域社会	有限会社ホームセンター仙台	看護学部	馬林　幸枝
R07Ⅰ27	水福連携の普及及び認知度向上に向けた研究	防災復興	岩手県	総合政策学部	山本　健
R07Ⅰ28	EBPMの手法を取りいれた盛岡市行政DX推進計画の策定について	地域マネジメント	盛岡市	総合政策学部	杉谷　和哉
R07Ⅰ29	岩手県満州開拓事業・資料に関わる慰霊・保存・啓発活動の継承にむけて	地域社会	岩手県満州開拓殉難の塔を守る会	盛岡短期大学部	三須田　善暢

◆ステージⅡ　【令和７年４月～令和９年３月】

研究課題名		研究部門	課題提案者	研究代表者	
				所属	氏名
R07Ⅱ01	職員の業務効率化と地域歴史観光の振興を実現する生成 AI 活用型ガイドシステムの開発と実装	地域社会	盛岡市教育委員会	ソフトウェア情報学部	蔡　大維

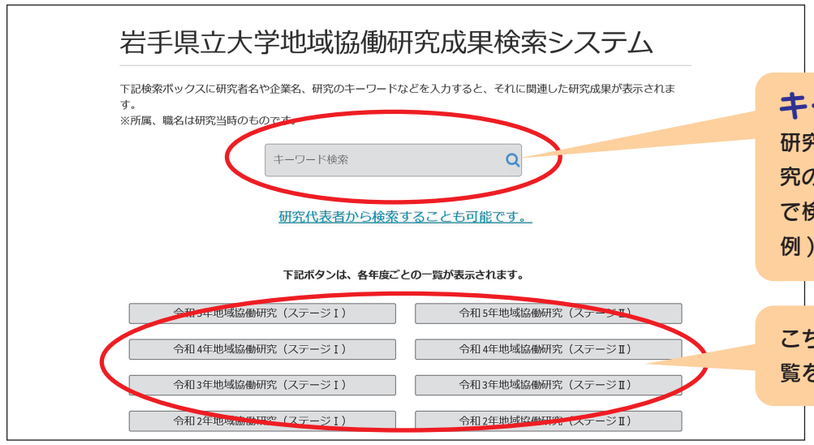
岩手県立大学地域協働研究成果検索システムのご案内

岩手県立大学地域協働研究成果検索システムは、現在研究中のものも含め、これまでの地域協働研究の研究成果を検索できるシステムです。

ご利用方法等のご案内

【アクセス方法】
右記QRコード（URL：https://www.iwate-pu.ac.jp/contribution/r_c_research/）よりアクセス、若しくは各種検索エンジンにて『**岩手県立大学地域協働研究成果検索システム**』と検索。

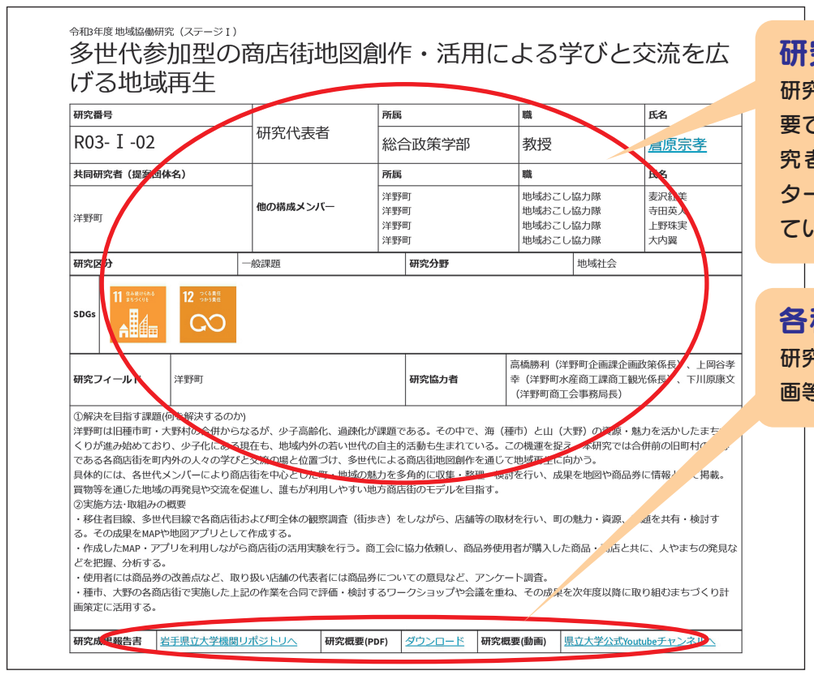
下記ページよりキーワード検索等をしていただくことで研究の詳細をご覧いただけます。



キーワード検索
研究代表者名、地域団体名、研究のキーワード等自由な文字列で検索することができます。
例）震災復興、地域おこし

こちらのボタンより、各年度一覧を表示することができます。

研究詳細画面



研究概要
研究開始時の研究についての概要です。研究代表者名、協働研究者、研究分野、SDGs17 のターゲットの区分等が表記されています。

各種リンク
研究内容についての報告集、動画等に関するリンクです。

こんなキーワードで研究されています



岩手県立大学　地域政策研究センターは、地域の皆様からの相談窓口です！

岩手県立大学は、本学の教育研究などの知的資源の還元を通して、地域と大学の双方の発展に寄与することを目的に、お問い合わせの窓口を設けています。
この窓口では、地域のみなさまから本学の地域貢献に関するご要望・ご相談を受け付けます。お気軽にお問い合わせください。

〇〇に詳しい先生がいるか確認したい！



県立大に〇〇の協力をお願いしたい！



〇〇の専門家を会議の委員として派遣して欲しい！

地域の課題解決に一緒に取り組んでくれる先生を紹介して欲しい！

【お問い合わせ先】岩手県立大学 地域政策研究センター
公立大学法人 岩手県立大学 Iwate Prefectural University
TEL 019-694-3330
E-mail：chiren@ml.iwate-pu.ac.jp